

# くすのき

親和女子高等学校 進路通信 高校3年 2021年度第5号

## 《『陰翳礼讃』》

ふと思い出して、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』を読み返しました。なにゆえに思い出したかというと、神戸大学の入試情報を見ていて、理系の共通テストにおける傾斜配点の中で国語の配点が大きいことに目がいったからです。谷崎の『陰翳礼讃』は、大学の建築系・デザイン系などの学部・学科で、1年次に読まされ、レポートを書かされたりしている本です。理系とはいえ、大学が、文系的知識と、文字からイメージを立ち上げる力、といったものを要求しているのがよくわかります。これからの社会を生きていくあなた方は、文理融合的な力が、今まで以上に必要になってくることでしょう。

## 《入試戦略の立て方 ～私立大学～》

さて、今の時期になると、各大学は今春の入試結果を公表し始めます。合格者数はもちろん、それ以外にも、受験者平均点、合格者平均点、県別合格者数等々、さまざまなデータを見ることができます。自分が受験しようと思っている大学のデータを是非覗いてみて下さい。

データの中で注目してほしいのは、合格最低点です。合格をするのに、最高点で受からなければならない訳ではないですね。少々乱暴な言い方をすれば、合格できればいいわけです。ですので、最低点をクリアできるように、戦略を立てていくことが大事です。

今年の関西学院大学のデータは公表されています。そのデータを使いながら、少し話をしましょう。入試パターンとして、全学日程型と学部別日程型がありますが、ここでは、全学日程型でみていくこととします。

学部・学科・課程・専修・コース・専攻	英語	国語	数学	地歴	理科	総点	合格最低点	得点率%
法学部 法律学科	200	200	※150			550	364	66.2%
法学部 政治学科	200	200	※150			550	357	64.9%
建築学部 建築学科	※150		※150		150	450	257.1	57.1%

※印は「中央値補正」を行う科目

上の表を見てもらうと、法学部法律学科の合格最低点平均は、364点（66.2%）。単純に得点率で考えますと、英語・国語132点、選択科目99点をとれば、合格できるわけです。今年度は、まだ科目平均点が公表されていないので、昨年度のデータを見てみましょう。

昨年度の同学部同学科の合格最低点は357.5点（65%）。単純得点率で考えると、英語・国語が各130点、日本史97.5点をとればいいわけです。ちなみに、各科目の平均点は、英語128.3点、国語127.8点、日本史75.6点（選択科目は中央値補正を行っており、補正前は88.5点でした）。となると、英語・国語は平均点的な力の場合、日本史を頑張って勉強すればいいわけです。

人によって、得手不得手はあるので、科目によるバランスは十人十色かと思いますが、要は65%をトータルでクリアできさえすればいいわけです。如何ですか、自分ならどの科目に力点をおいて勉強をしていきますか。実際に過去問を見て、戦術を立ててみましょう。

但し、関学の場合、普通に考えれば、合格最低点は整数のはずですが、学部によっては小数点第1位までの数字が出ています。これは、選択科目間の平均点のアンバランスを解消するために、「中央値補正」という得点調整を行っているためです。詳しいことは、大学の入試要項を見て下さい。簡単に言えば、この補正を行うと、元の平均点が高い場合、中央値が高くなり、高得点者は得点が大幅に下がり、低得点者は大幅に上がることになります。中央値

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

[進路通信]などの進路指導部が発信する情報の一部を親和女子高等学校HPでも閲覧できます。

が低いとそれほど影響はありません。ですので、地歴で高得点がとれた、と思って喜んでいたら、調整で得点が下がり、不合格になってしまった、ということが起こります。ですが、社会学部、経済学部を除く他の文系学部ではトータルで70%がとれる力があれば、合格できると考えればいいと思います。社会学部、経済学部は、75%が必要になります。

一方の建築学部建築学科ですと、合格最低点は257.1点(57.1%)です。理系の学部でも文系学部と同様に、選択科目で得点調整がなされますので、60%がとれる力が必要と考えてもらえればいいかと思います。但し、工学部は65%くらいがとれる力が必要です。

### 《入試戦略 ～国公立大学～》

私立大学と同様に、国公立大学も結果を公表しています。近いところで、神戸大学を見てみましょう。

学部・学科等			共通テスト			総合点				
			配点	平均点	%	配点 合計	最低点	%	平均点	%
法学部			425	353.5	83.2%	800	540.2	67.5%	563.9	70.5%
医学部	保健学科	看護学専攻	450	339.6	75.5%	800	482.4	60.3%	514.4	64.3%
工学部	建築学科		300	241.9	80.6%	800	488.6	61.1%	524.1	65.5%

法学部では合格者の平均点は563.9点(70.5%)。最低点は540.2点(67.5%)です。一次試験(共通テスト)は合格者の平均点が353.5点(83.2%)。つまり、共通テストで80%の340点がとれると、二次試験では375点満点で200.2点(53.4%)をとれば合格できるということになります。

医学部保健学科看護学専攻では、合格者の平均点は514.4点(64.3%)。最低点は482.4点(60.3%)です。一次試験の合格者の平均点は339.6点(75.5%)。つまり、共通テストで75%の337.5点をとれば、二次試験は144.9点(41.4%)で合格できるということです。

工学部建築学科でみれば、合格者の平均点は524.1点(65.5%)。最低点は488.6点(61.1%)。一次試験の平均点は241.9点(80.6%)。つまり、一次試験で80%の240点をとれば、二次試験では248.6点(49.7%)で合格できるということになります。

但し、多くの学部は、共通テスト5教科7科目900点満点に傾斜をかけて、換算していますので、それぞれの学部の傾斜配点をよく見なければなりません。神戸大学の場合、概ね文系の場合は共通テストで80%、医学科を除く理系は75%が目安と考えるとよいでしょう。英語に関しては、リーディング(R)とリスニング(L)がそれぞれ100点配点ですが、神戸大学の場合、R160点、L40点に換算していますので注意して下さい。他の大学でも同様の換算をしていますので、よく確認して下さい。

一次試験と二次試験の配点率の違いにも着目すると、多くの学部、特に文系学部は、一次試験の方が配点が高くなっています。したがって、共通テストで如何に得点を確保できるかが鍵を握ってくるのがわかります。逆に、多くの理系学部は、建築学科のように二次試験の方が配点が高くなっており、共通テストを若干しくじっても逆転は可能だということがわかります。

こうした分析をしていくと見えてくることは、国公立大学はまず共通テストで確実に得点することです。文系は特にその必要性が高いわけです。理系は二次試験での逆転が可能な大学・学部が多いので、そこに望みをかけることもできます。

しかし、油断は禁物です。一次試験で思った以上の高得点を取り、浮かれて二次試験までの期間、ルンルン気分でテレビを見たりする時間が増えた結果、浪人した生徒がいました。最後まで、気を抜くことなく、頑張ってください。

### 《後記》

進路通信やClassiなどを通して、進路関係の情報を発信しますが、例えば校外模試の申込書などは、教室で配布されることはありません。必要な人は自分で進路指導室に取りに行くようにして下さい。あくまで自分の進路であることを意識して行動しましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[進路通信]などの進路指導部が発信する情報の一部を親和女子高等学校HPでも閲覧できます。